

町家暮らし ～地域との関わりの中で～

町家で暮らすことはその地域社会の中で暮らすことです。
町家地域特有の決まり事、作法などがありますが、メリットもたくさんあります。
ここでは、地域の慣習のような町家“あるある”を挙げてみました。

雁木のルール

総延長12.8Km(2018年)と日本一の長さを誇る高田の雁木。
何より驚きなのは、公共の通路として使われていながら私有地である、ということ。私有地でありながら、私的な使い方はしない、けれどそれぞれの考え方で利用できる、という暗黙のルールがあります。
誰でもベンチ、郵便ポスト、植木鉢やプランター、掲示板、ごみ収集の容器などを置いたり、自転車の駐輪はOK。自家用車は一時的に停車してもよいが、通路分は確保する、など。
また、降雪時の除雪は流雪溝使用等のルールを守って行います。
高田の文化の代表格である雁木です。
改修の際にはぜひ、お互いをおもいやる雪国の精神に思いを馳せながら、雁木や街並みへの配慮もいたしたいものです。



ごぜミュージアム前の雁木(東本町1)



改修した町家住宅。→
雁木も街並みに合わせて改修

隣地との関係のルール

隣の家と壁をはさんで隣接している町家では、隣近所との関係性も大切です。ゴミ回収や清掃、町内行事等には進んで参加し、近隣のルールの中でよりよい関係を築きましょう。
また改修工事などの際には、隣との境界確認を忘れずに。
境界壁については防音・防火性能も重視しましょう。
町家を解体するときには、両隣の家の外壁(これまで自邸と共有していた壁)を修繕しきれいにするのも町家のルールです。



隣がなくなった後の外壁

裏通りのルール

町家の裏通りは、非常時の避難や排雪スペース、畑などに利用されてきました。いわゆる“勝手口”です。
現在でも避難経路としての役割は重要です。
普段使用しないからといって、物を放置などして荒れ放題にはせず、近隣の方々とよい関係を作れるスペースとしておきましょう。
また、中庭など限られた外部空間を有効に使いましょう。



町家の裏畑(大町5)

町家改修のポイント | ～耐震～

ここからは、改修時にポイントとなることを部分ごとに紹介します。
まずは、建築物の構造体(基礎・柱・梁など)についてです。

基礎・柱・梁などの構造体は人間でいえば骨にあたります。大きな地震が起きたときに家の倒壊を防ぐのは構造体です。
詳しくは専門家への相談が必要となりますが、ここでは基本的な考え方をご紹介します。

基礎

地盤の上で建物の柱や梁を支えているとても重要な部分です。
柱や梁がいくらしっかりしていても、基礎がもろいと地震などの力に耐えられません。最もよいのは鉄筋コンクリートの基礎ですが、古い建物には使われていない可能性が高いです。改修時、基礎をどうするのかは全体の予算と合わせて建築士や施工業者とご相談ください。



古い町家の基礎の例



改修で基礎を作っている例



鉄筋の入っていない基礎に鉄筋を外からかぶせている例

壁(耐力壁)

「耐力壁」とは、地震などが起きた際に、倒れないように“揺れ”に抵抗する壁のことです。具体的には写真①のような筋交いが入ったもの、写真②のようなしっかりと合板で固定された壁、などがその役割を果たしています。

近年の建物には建築基準法で決められた耐力壁が入っていますが、昔の建物は耐力壁で地震に抵抗するような作りにはなっていません。

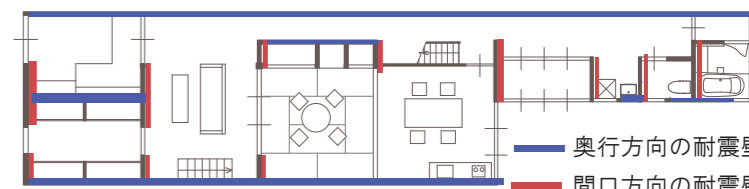
また、耐力壁はバランスよく入っていなければならないのですが(図③)、町家は細長いので、奥行方向にしか壁がないことが多いです。(図③の青い壁)
内部の間取りを変更する工事を行う際には、耐力壁を意識した間取りとなるよう建築士と相談しましょう。



写真②
開口部だった所に壁を増設→



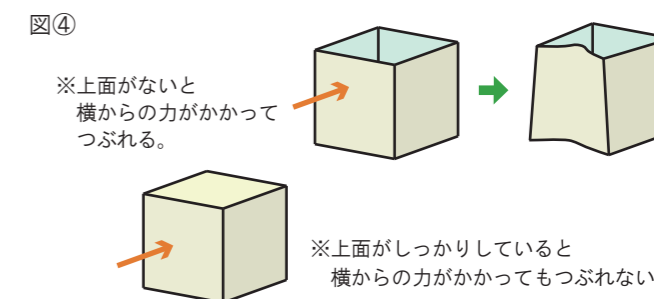
←写真①
X型の筋交いを入れているところ



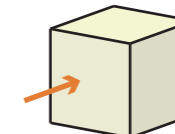
縦横に耐力壁を入れた例 図③

床・天井(水平面剛性)

図④のように箱があったとき、箱の側面がしっかりしていても、上面の蓋がないと横から押されたとき箱は変形してしまいます。同様に建築物もふたにあたる天井や2階の床がしっかりしていないと壁がしっかりしていても地震に負けてしまいます。
床や天井面も剛性を高めてもらえるよう、相談している建築士にお願いします。



※上面がないと横からの力がかかってもつぶれる。



※上面がしっかりしていると横からの力がかかってもつぶれない。